

新フェローの紹介

フェローは、オペレーションズ・リサーチの研究と発展に多大なる貢献をなされた方に、その功績をたたえて贈られる称号です。2014年度は、新フェロー7名の方が理事会で以下のとおり選ばれました。

フェロー記は2015年3月26日の春季研究発表会（東京理科大学）にて贈呈されました。

塩浦 昭義（しおうら あきよし）氏



昭和45年5月生まれ

〔学歴〕

平成9年 東京工業大学大学院情報理工学研究科数理・計算科学専攻
博士後期課程中途退学（博士(理学)）

〔職歴〕

平成9年 上智大学理工学部機械工学科助手

平成13年 東北大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻 助教授（准教授）

平成27年 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻 准教授 現在に至る

この間、カナダBritish Columbia大学訪問研究員、ドイツZuse Institute Berlin訪問研究員

〔OR学会関係〕

平成18年 文献賞奨励賞

平成24年 研究賞

平成9～13年 庶務幹事

平成14～27年 東北支部幹事

平成14～27年 研究普及委員

平成21～24年 論文誌編集委員

平成10～11年 数理計画法特設研究部会幹事

平成11～13年 「最適化とアルゴリズム」研究部会幹事

平成16, 22年 秋季研究発表会実行委員

平成23～24年 RAMPシンポジウム実行委員長

〔著書等〕

離散凸解析と最適化アルゴリズム（共著、朝倉書店）、

Handbook of Combinatorial Optimization, 2nd Edition（共著、Springer）、学術論文42編、研究発表多数

塩浦氏は、離散最適化の分野で研究活動をしており、特に離散凸解析の理論・アルゴリズム・応用に関する研究では本学会研究賞を受賞しています。また、本学会においては、各種委員、研究部会幹事、研究発表会やシンポジウムの実行委員などを歴任し、その活動を支援しています。

鴨居 達哉 (かもい たつや) 氏



昭和36年2月生まれ

〔学歴〕

昭和58年 上智大学外国語学部卒業

〔職歴〕

昭和58年 セイコーエプソン(株)入社

平成12年 プライスウォーターハウスクーパース(株)入社

平成15年 (プライスウォーターハウスクーパース(株)のIBMへの統合により) IBM ビジネスコンサルティングサービス(株)に入社

平成17年 IBM Corporation勤務

平成18年 日本アイ・ビー・エム(株) 執行役員兼IBMビジネスコンサルティングサービス(株) 取締役

平成24年 日本アイ・ビー・エム(株) 常務執行役員

平成26年 マーサージャパン 代表取締役社長, ファーイースト地域 代表
経済同友会会員

〔OR学会関係〕

平成24~25年 オペレーションズ・リサーチ学会副会長

鴨居氏は、副会長職に加えて、会員増強・活性化を目指した「学会活性化委員会」の初代委員長に就任。学会財政健全化も背景に、「研究部会活動補助金倍増化」・「学生会員年会費無料化」などを打ち出し、活性化を進めました。この流れは、次期委員長にも受け継がれ、学会統一テーマ設定「オリンピック・パラリンピックとOR」や特設研究部会発足にもつながっています。これらの功績が評価され、フェローに推薦されました。

小野里 好邦 (おのざと よしくに) 氏



昭和27年1月18日生まれ

〔学歴〕

昭和49年 東北大学工学部通信工学科卒業

昭和56年 東北大学工学研究科電気および通信工学専攻修了(工学博士)

〔職歴〕

昭和56年 電気通信大学 助手

昭和58年 電気通信大学 講師

昭和61年 電気通信大学 助教授

平成4年 群馬大学工学部 教授

平成26年 群馬大学理工学研究院 教授 現在に至る

〔OR学会関係〕

昭和61~62年 待ち行列研究部会幹事

平成18~19年 待ち行列研究部会主査

小野里氏の業績は、情報通信ネットワークの設計、性能評価、および実装など、理論的側面から実用的側面まで広範囲にわたります。研究の対象システムは、衛星通信、コンピュータネットワーク、分散コンピューティングシステム、アドホック無線ネットワークなどです。研究においては、待ち行列理論やコンピュータシミュレーションなど、オペレーションズ・リサーチの技法を駆使されています。

1970年代にハワイ大学において実施された、無線通信コンピュータネットワークの先駆的実験システムであるALOHAシステムの研究開発にも貢献されたことは、特筆に値します。後にカタストロフィー理論を用いて、

ALOHAシステムにおける通信プロトコルのモデル化と性能評価に関する先進的な研究成果を発表されました。これは、今日の情報通信に欠かすことのできない無線ローカルエリアネットワーク（無線LAN）に関する通信プロトコル（ランダムアクセスプロトコル）に対して基礎となる顕著な功績です。

齋藤 参郎（さいとう さぶろう）氏



昭和23年6月生まれ

〔学歴〕

昭和52年3月 東京工業大学大学院理工学研究科社会学専攻博士課程満退

平成6年6月 博士(工学) 東京工業大学
(工第2217号)

〔職歴〕

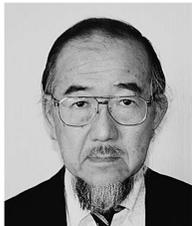
昭和52～54年 東京工業大学工学部社会学科 助手

昭和54～59年 佐賀大学経済学部管理科学科 助教授
昭和59～現在 福岡大学経済学部 教授
平成元～3年 福岡大学経済学部長
平成6～7年 ペンシルバニア大学 客員研究員
平成11～13年 福岡大学大学院経済学研究科 研究科長
平成12～ 福岡大学都市空間情報行動研究所長
平成17～21年 福岡大学経済学部長
平成17～21年 福岡大学理事
平成21～25年 福岡大学大学院経済学研究科 研究科長
平成21～23年 福岡大学経済学部先端経済研究センター長
平成22～23年 東京大学客員教授（空間情報科学研究センター（CSIS））
平成23～23年 福岡大学経済学部長
〔OR学会関係〕
平成14～16年 九州支部 支部長
平成14～16年 理事
平成15年 秋季研究発表会（於：福岡大学）実行委員長
平成16～現在 九州支部 運営委員

齋藤氏は、OR学会関係では、平成14年5月から2年間九州支部長を務められるなど九州支部の活動に尽力されてこられました。特に、平成15年9月に福岡大学で開催された秋季研究発表会の実行委員長として、特別テーマ「アジアに広がるOR」を掲げ、市民公開パネルディスカッション「中国の産業発展と日本の対応～生産基地から豊かな消費市場へ」を企画し、中国からのパネラーを実現するなど、研究発表会を成功に導かれました。

齋藤氏はまた、長年にわたり消費者の回遊行動研究を基に、まちづくり政策の科学的方法を開拓し、本学会をはじめとし、日本地域学会、日本不動産学会などでその研究成果を発表されてきました。代表的な業績の一つが来街地ベース調査に基づく回遊パターン的一致推定法で、来街地ベース調査にまつわるバイアスを取り除く方法論と純入込来街者数を正確に測る理論的方法を確立され、日本地域学会賞論文賞を受賞されています。

大堀 隆文 (おおほり たかふみ) 氏



昭和25年7月生まれ

〔学歴〕

昭和48年 北海道大学工学部卒業

昭和53年 北海道大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和53年 北海道工業大学電気工学科 講師

昭和56年 北海道工業大学電気工学科 助教授

平成4年 北海道工業大学情報デザイン学科 教授

平成26年 北海道科学大学メディアデザイン学科 教授 現在に至る

〔OR学会関係〕

昭和53～平成23年 北海道支部運営委員

平成23～25年 北海道副支部長

平成25～27年 北海道支部長

平成26年 秋季研究発表会 実行委員長

平成25～28年 「OR普及のためのモチベーション教育」研究部会主査

大堀氏は、全国組織の役職としては、代議員、研究発表会実行委員長を務めた。また研究部会では、「OR普及のためのモチベーション教育」研究部会の主査を務め、他分野の研究者へのORの普及に貢献しています。

北海道支部の役職としては、長年にわたり運営委員、副支部長、支部長を務め、北海道におけるORの発展に寄与してきました。

また、著書として、ORの記述に必要なプログラミング言語の入門書として、「例題で学ぶJava入門」、「例題で学ぶJava アプレット入門」、「例題で学ぶExcel入門」(コロナ社)を出版しORの普及に勤めておられます。

加地 太一 (かじ たいち) 氏



昭和35年7月生まれ

〔学歴〕

昭和63年 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和63年 東芝

平成元年 北海道情報大学経営情報学部 助手

平成6年 小樽商科大学商学部 助教授

平成15年 小樽商科大学商学部 教授 現在に至る

〔OR学会関係〕

平成26年度 秋季シンポジウム実行委員長

平成21～22年 北海道支部長

平成22年～現在 代議員

平成9年～現在 北海道支部運営委員

平成8, 20, 26年度 研究発表会実行委員 など

〔著書等〕

メタヒューリスティクスと応用 (分担, 電気学会), 情報学入門 (分担, コロナ社), 学術論文52編, 研究発表多数

加地氏は、組合せ最適化問題に対するアルゴリズムについて幅広く研究活動をされており、特にメタヒューリスティクスに基づくアルゴリズムの開発、解析に関して顕著な業績を上げておられます。また、本学会においては、支部長、評議委員、各種運営委員、および研究発表会、シンポジウムの実行委員長、実行委員など歴任され、その活動を支えておられます。

三浦 英俊 (みうら ひでとし) 氏



昭和42年12月生まれ

[学歴]

平成8年 筑波大学大学院博士課程社会学部研究科修了
博士(都市・地域計画)

[職歴]

平成8年 日本学術振興会 特別研究員

平成10年 明海大学不動産学部 専任講師

平成16年 明海大学不動産学部 助教授

平成23年 南山大学情報理工学部教授(平成26年より理工学部に変更)

[OR学会関係]

平成13~19年 機関誌編集委員

平成22~24年 広報委員

平成24年~現在 論文誌編集委員

平成24年~現在 中部支部運営委員

平成24年~現在 「大規模インフラストラクチャーのOR」研究部会主査

三浦英俊氏は筑波大学大学院を修了後、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本都市計画学会、地理情報システム学会などにおいて、OR手法を駆使した研究論文を執筆し、顕著なる成績をあげておられます。特にOR学会においては2013年秋季研究発表会において実行委員として中心的な役割を果たされ、発表会ならびにシンポジウムの成功に大いに貢献されました。さらに、2009年に執筆されたOR誌の論文“ロジットモデルを用いたリニア中央新幹線の需要予測”(Vol. 54, No. 7)によって、2010年度事例研究賞を受賞されました。これらに加え、三浦氏は日本グローバルインフラストラクチャー研究財団の委託により日本OR学会が開催している、グローバルインフラストラクチャーに関する研究部会で複数期にわたってその主査の要職を務められ、ORの実践と普及に寄与するのみならず、委託研究を通じて学会の財政面にも多大なる貢献をされました。